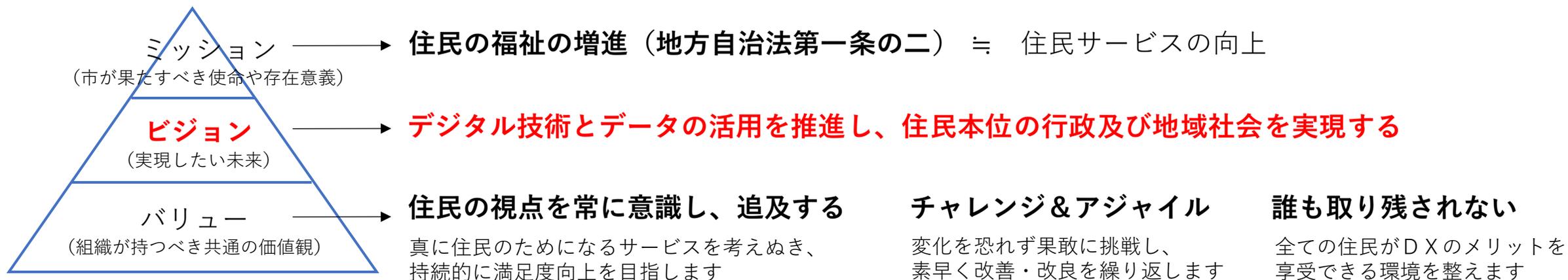


D X 推進計画に基づくWG活動への協力依頼

- 1 令和5年度の活動報告
- 2 令和6年度WGメンバーの選出依頼

前橋市DX（デジタルトランスフォーメーション）推進計画の概要

- 国は「誰一人取り残さない、人に優しいデジタル化」を目指し、令和3年9月にデジタル庁を設置。
- 重要なのは、単なる新技術の導入ではなく、「デジタル化を手段として変革を進めること（＝DX）」。
- 本市では、ミッション（使命）・ビジョン（未来像）・バリュー（共通価値）を定義し、3つの柱と8つの重点事業のもと、着実に歩みを進めていくことを目指す。計画期間は5年間（2021年4月～2026年3月）。



3つの柱と8つの重点事業

1 住民の利便性向上

- (1)行政手続のオンライン化
- (2)マイナンバーカードの普及・活用
- (3)情報システムの全体最適化

2 新たな価値創造

- (1)官民データ活用の推進
- (2)市役所のDX推進
- (3)地域社会のDX推進

3 すべての住民に

- (1)デジタルディバイドの解消
- (2)デジタルインフラの整備

庁内横断的なWG活動を通じた事業推進（令和5年度）

・各WGの成果は以下のとおり（詳細は、別添「令和5年度WG活動実績」参照）

重点事業	WG名	内容	主な結果
1 行政手続のオンライン化	①制度デジタル化WG	オンライン化の推進課題（本人確認の認証レベルに応じた事務の棚卸し等）を検討	<ul style="list-style-type: none"> ・本人確認手法の全庁照会を実施 ・次期電子申請システムの試験環境構築
2 マイナンバーカードの普及・活用 8 デジタルインフラの整備	②マイナンバーカード活用・普及WG	社会情勢に合わせたカードの活用、未申請者（約20%）へのアプローチ等を検討	<ul style="list-style-type: none"> ・申請率85.44%：交付率81.9%（1月末時点） ・電子証明書更新等の窓口拡充（R6.2.1-、城南支所・5SC）
3 情報システムの全体最適化 5 市役所のDX推進	③BPR推進WG (BusinessProcessRe-engineering)	業務の流れを可視化したうえで、有効なデジタルツールの活用を検討	<ul style="list-style-type: none"> ・各所属BPR対象業務における課題の洗出し ・RPA作成研修（年2回、計10所属）、アプリ作成研修実施
	④ミライズWG	職員でなければできない企画立案業務や住民への直接的なサービス提供に注力できる環境、これからの時代に合った市役所づくり	<ul style="list-style-type: none"> 【たすけあい+実験結果】8所属9件の募集、24人の応募 【ChatGPT】活用マニュアル作成、利用開始 【複業】副業ニュースレター（職員課）発行 【組織風土】庁内WEB広報「たがやす。」発行
	⑤貸館予約システムWG	令和5年度中の貸館予約システム導入	中央公民館での運用開始 (R5.11.1-、キャッシュレス決済含む)
	⑥内部統制のDX推進WG	デジタル技術を活用した内部統制へ移行するための体制と手法のあり方を検討	外部有識者を交えて検討会を開催
4 官民データ活用の推進	⑦官民データ活用WG	交通安全対策にかかるEBPM推進検討	先行事例や各課業務への活用可能性の検討
6 地域社会のDX推進	⑧地域社会のDX推進WG	地域資産×デジタル活用のプロセスを試行	<ul style="list-style-type: none"> ・アイデアソンの実施（4件のアイデアを創出） ・ハッカソンの実施（6つのScratchゲームを作成）
7 デジタルデバイドの解消	⑨デジタルデバイド解消WG	まえばしデジタルサポーター制度の開始	<ul style="list-style-type: none"> ・サポーター登録者数 57人（目標50人） ・デジタルよろず相談所 333件 ・自治会タブレット支援件数 278自治会

BPR推進WGの実践例（資産税課：償却資産申告書審査業務）

業務概要

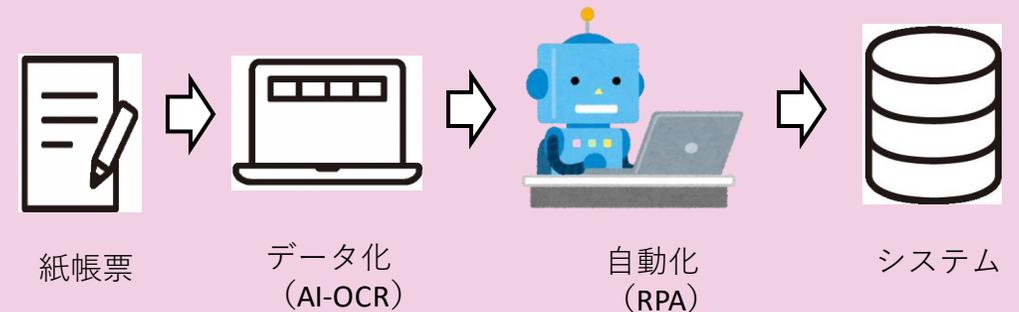
- ・ 申告件数は13,000件以上、申告される資産件数は約300,000件
- ・ 1月から申告が始まり、3月上旬までの業務完了が必須
- ・ 受付入力、申告内容審査、システム登録、二次チェックを行う

Before (BPR前)



- ・ 大量の「紙」の申告書を「目視」と「手入力」で処理

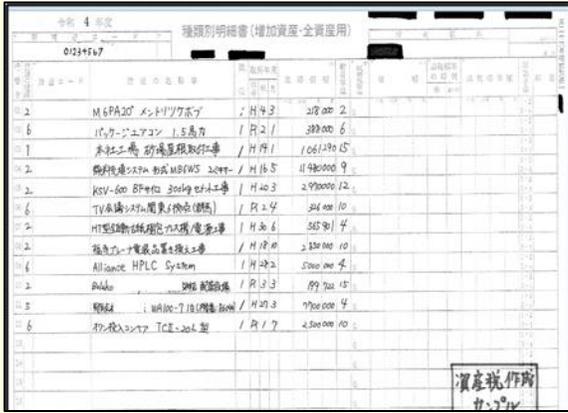
After (BPR後)



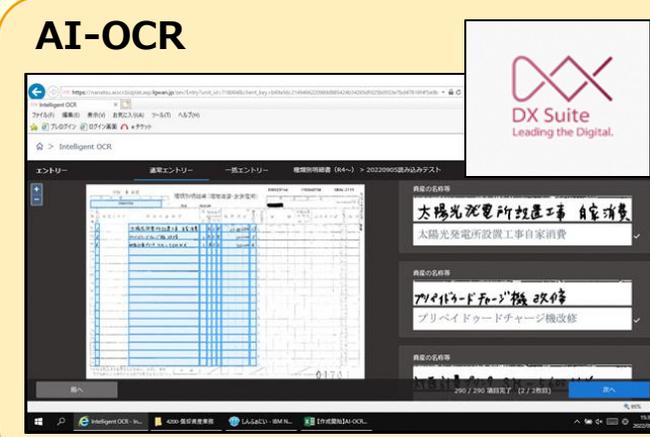
- ・ 「紙」の申告書を「データ化」(AI-OCR)
- ・ 「目視・手入力」を「自動化」(RPA)

AI-OCR

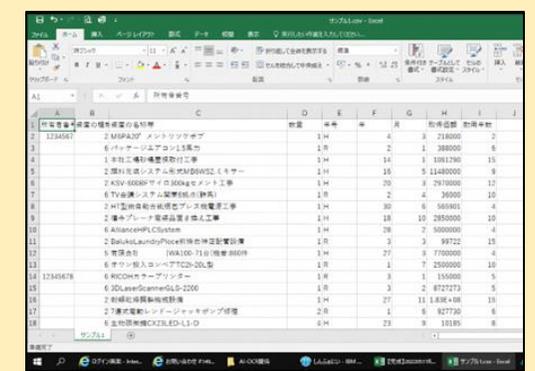
STEP 1 申告書をスキャナー



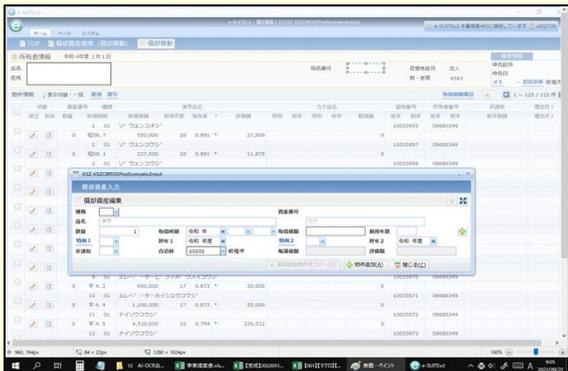
STEP 2 AI-OCRで読み込み



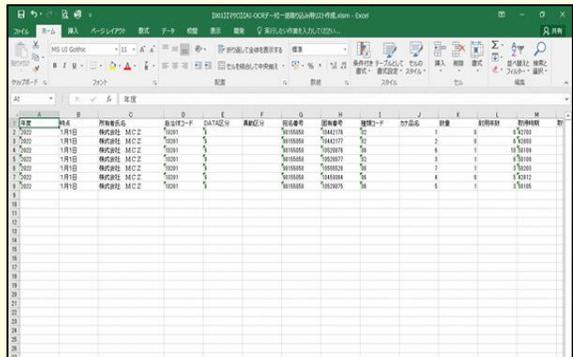
STEP 3 CSV出力



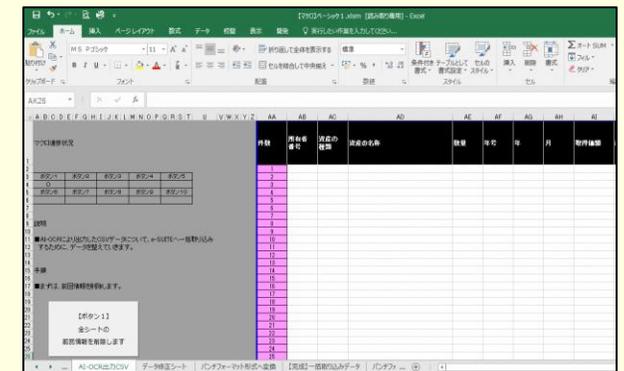
STEP 6 一括登録



STEP 5 取込フォーマットへ

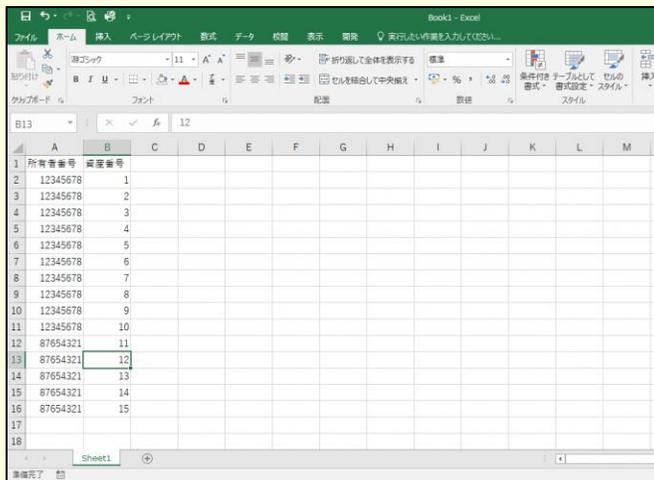


STEP 4 Excelマクロで加工

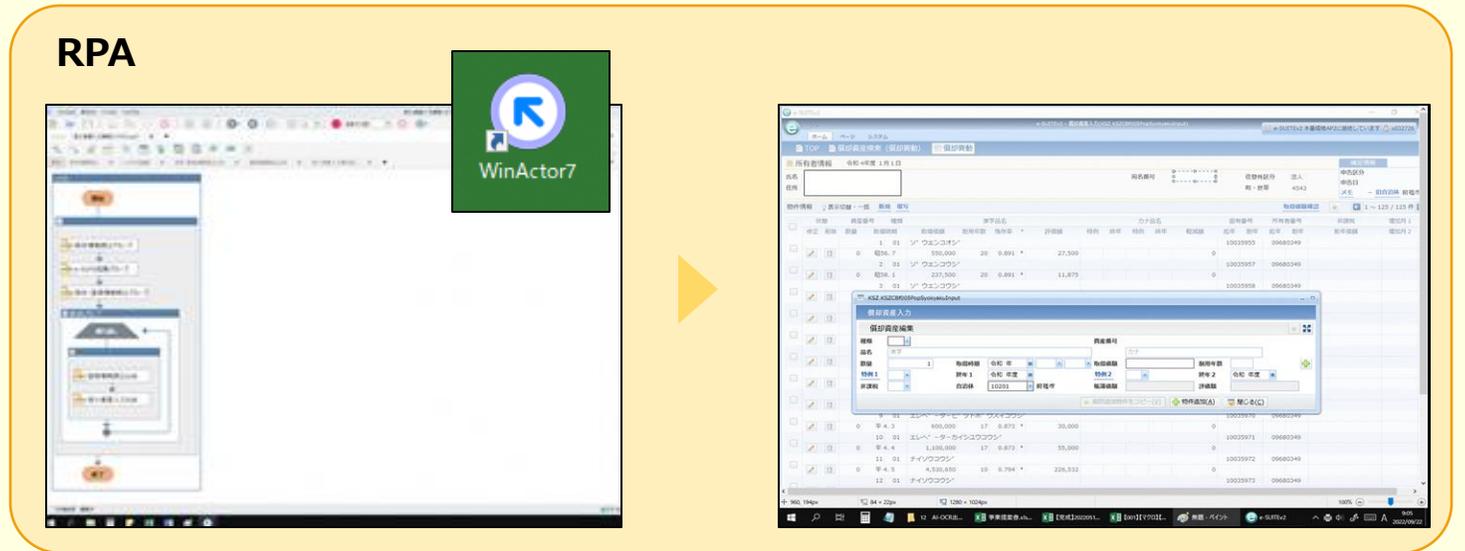


RPA

STEP 1 Excelリストへ簡易入力



STEP 2 RPAでシステムへ入力



業務を熟知している担当課がBPRを行い、RPAを作成することがポイント

BPR推進WG内で研修を受け、研修資料を参考に担当課でRPA作成可能

本業務のような「特定の項目を、システムへそのまま入力する」といった業務に最適



BPRによる成果 超過勤務時間の縮減

成果

1,028時間 → 286時間 **72% (742時間) を縮減**

償却資産係 年度別 超過勤務状況

(平日)

超過勤務 (時:分)	1月	2月	3月	時間合計
令和2年度	257時間47分	371時間04分	106時間58分	735時間49分
令和3年度	91時間08分	345時間51分	49時間32分	486時間31分
令和4年度	2時間17分	266時間47分	16時間30分	285時間34分
合計	▲255時間22分	▲104時間17分	▲90時間28分	▲450時間07分

(土日)

土日 (日:延べ人数)	1月	2月	3月	合計	時間合計
令和2年度	1日:8人	5日:40人	0	6日:48人	291時間37分
令和3年度	0	0	0	0	0
令和4年度	0	0	0	0	0
合計	▲1日:8人	▲5日:40人	0人	▲6日:48人	▲291時間37分

デジタルデバイドWG動画再生

令和6年度WGメンバーの選出依頼

○令和5年度の活動実績を踏まえ、6つのWGに再編

○WG活動の性質に応じた職員選出を依頼（詳細は、別途依頼通知を发出）

WG名	内容	職員選出
① B P R 推進WG (制度デジタル化WG) (内部統制のDX推進WG)	全ての所属が変革による価値創造を目指し、自主的・自律的にBPRできる環境をつくる ・R5年度課題抽出シートに基づく共通課題の解決に向けたグループ活動	全所属
② マイナンバーカード活用・普及WG	・未申請者へのアプローチ及び利活用サービス周知 ・新たな利活用サービスの追加、機能拡充 ・市民目線でよりわかりやすいサービスになるよう検討	関係所属
③ 貸館予約システムWG	・中央公民館におけるシステム利用促進 ・中央公民館以外の施設への横展開 ・キーレスの導入検討	
④ デジタルデバイド解消WG	・まえばしデジタルサポーター制度の充実	
⑤ ミライズWG	自治体の本質的な使命実現のため、職員でなければできない企画立案業務や住民への直接的なサービス提供に注力できる環境をつくる 【たすけあい+】 実証実験の効果検証、制度設計 【複業】 可否事例集、申請フローチャート等の作成 【組織風土】 庁内WEB広報の継続発行、組織風土向上のための新たなアプローチ検討	公募 (手上げ)
⑥ 地域社会のDX推進WG (官民データ活用WG)	生活者の価値やユースケースを起点とした新しい発想で、人と人との繋がりを、地域が活性化する活動を推進する ・オープンデータの推進 ・地域アーカイブの推進（地域資産のデジタル化、保存、活用）	